

# 調査検討会議における検討経過

令和元年10月16日  
国立公文書館の機能・施設の在り方等  
に関する調査検討会議（第24回）資料  
内閣府大臣官房公文書管理課

## 資料 1

### 平成26年度

- 新たな国立公文書館（新館）の建設に向けて、国立公文書館の機能・施設の在り方について、まず、様々な視点から幅広い検討を行うという趣旨で開催。
- 議論の対象は、複数の機能にまたがるもの（例：デジタル・アーカイブ）も含め、展示・学習、研修・人材育成、保存、収集、修復等の諸機能。議論の中心は、展示・学習機能。（※海外調査も実施）
- 立法府の所管にわたる内容も含む「国立公文書館の機能・施設の在り方に関する提言」（平成27年3月）を取りまとめ。

### 平成27年度

- 新館の理念・目的を明確化するとともに、公文書館として対象とすべき文書、機能、組織、運営等についての基本的な考え方を整理し、公文書館のあるべき姿を示すことを目標に議論。
- 対象文書、展示・学習機能以外の機能（収集機能、保存・修復機能、調査研究支援機能、デジタルアーカイブ機能、人材育成・研修機能、他機関保有文書との関係）、組織・運営等について議論。
- 「国立公文書館の機能・施設の在り方に関する基本構想」（平成28年3月）を取りまとめ。

### 平成28年度

- 調査検討会議の下で、保存・利用支援等ワーキンググループ、及び展示・学習等ワーキンググループの2つのワーキンググループ（WG）を開催して、新館の諸室の規模・機能等について検討し、新館に必要とされる施設の在り方について議論。
- 「新たな国立公文書館の施設等に関する調査検討報告書」（平成29年3月）を取りまとめ。

### 平成29年度

- 新館と既存施設との役割分担を含む「新たな国立公文書館建設に関する基本計画」の原案及び基本計画案について政府から報告。
- 国立公文書館の最近の取組について議論。